

CAVOKV 航海日誌 2013年 #7

8/30 Marmaris～9/13 Kale Koy

2013年7月22日 松崎義邦氏メール

皆様に

約3週間ぶりに日本よりマリマリスに戻り9月からトルコでの航海を再開しました。

マリマリスのマリーナに頼んでおいた艇の修理も全て終わっており予定通り9月2日にマリマリスを出港してトルコの南海岸の航海を開始しました。

今年の前半に航海してきたトルコの西岸のエーゲ海地方から南岸のリキヤ地方に入ると天候も変わり強い北風のメルテメの影響も少なくなり、毎日青空の快晴の中、風にも恵まれ順調な航海をしています。

このリキヤ地方は湾や入り江が多く、入り江には自然の絶好のアンカーレッジが多数あり、又レストランには栈橋があり、そこで係留しての食事もしめました。海の色はターコイズブルーで澄んでいて綺麗で、又至る所にギリシャ、ローマそしてビザンチン時代の遺跡が残りクルージングには最適なエリアかと思えます。

5日からは米国人のゲストも加わり観光バスやレンタカーを使ってパムッカレやクサントスの世界遺産の観光もしました。

9月はこの地方絶好のクルージング日和の様です。沢山のチャーターボートや観光用のガレット船も多数行き交っています。

日中は大変暑いですが空気が乾燥しているので日が沈むと大変涼ぎやすくなります。まだまだ夏真っ盛りの南トルコをもう少し東に向かって航海したいと思っています。

Kekova にて

松崎義邦

以下の写真を添付させていただきます。

1. Ekriincik のレストラン栈橋
2. パムッカレの石灰棚
3. ヒエラポリスの円形劇場
4. 遺跡のあるパムッカレ温泉
5. Gemiler 島のアンカーレッジ
6. Wooden Bay のアンカーレッジ
7. ケコワ湾
8. Kale koy のレストラン栈橋
9. 花で飾ったレストラン

航海日誌 2013年 #7

8月29日(木曜日) 日本～トルコ

羽田発0100発 NH203便でフランクフルトへANAの便を使った関係で乗継が悪く、フランクフルトで5時間待ち時間があり、フランクフルトよりトルコ航空でイスタンブール経由ダラマン空港に向かう。

イスタンブールでは8時間の待ち時間がありダラマン空港に着いたのは30日の夜中1時過ぎになる。夜中に艇に行っても大変なので空港の近くの Burn Hotel を予約しておいたので、そこで取りあえずシャワーを浴びて休む。疲れていたのでぐっすり休めた。

8月30日(金曜日) Marmaris 快晴

朝爽やかな目覚めでホテルの朝食を食べて昨日送ってくれたタクシーを待つ。昨日の交渉では昨日はホテルまで、今日マリマリス迄でトータル70EUとの事になっていた。

朝8時30分に来てくれ約65km先のマリマリスに向かう。途中綺麗な道路で所々新しく広げる工事をしていた。トルコの経済状況が好調なのが良く分かる。マリマリスは大きな入り江の中にあるリゾート地で大きな町だ。町に入る丘の上から見る湾の景色は素晴らしかった。

マリーナに着いてから CAVOK5 が無事に陸置きされているのを見て安心する。

デッキには土ほこりが被っていたので早速デッキを水洗いする。悦子は荷物整理と艇内の整頓をする。整備を頼んでいたカッターラス・ベアリング(プロペラの軸受け)と VHF が修理出来ていたのホッとす。それぞれ 350EU,70EU だったがリーズナブルな修理代だ。

お昼はマリーナのプールサイドのレストランでハンバーグ、クラブサンドをビールで食べてから眠たくなり二人ともシエスタをする。久しぶりでデッキで寝て気持ち良かった。日差しは強いが風が心地よく日陰だと丁度良い気温だ。夕方プールで火照った体を冷やす。

夕食はご飯を炊いてヒジキ、キュウリの浅漬け、ハリハリ漬け、たらこの昆布巻きをビールで頂く。久しぶりにオーナーバースでゆっくり休む。天窓から入る風が心地よく熟睡した。

8月31日(土曜日) Marmaris 快晴

爽やかな朝を迎える。エーゲ海に吹き込むメルテメの影響で若干風が強い。午前中メールのやり取り今後の詳細の計画を練る。

午後折角艇を乗架してあるので船底の整備とハルの青の部分で傷ついたところをペイントする。また、セフティー・ハーネスを2個購入する。暑いとライフベストを着けているのが大変なのと一人で操船している時はセフティー・ハーネスだけで十分であるからだ。

夕方5時前にプールに行き泳ぐ。土曜日のせいか藤椅子は一杯になっていた。シャワーを浴びて帰ってから夕日を浴びながらビールを飲んで、夕食をコックピットで気持ち良い地中海の風を浴びながら頂く。イチジクのオードブル、ハリハリ漬け、ヒジキ、サラダ、スペイン風オムレツ、味噌汁、ご飯が美味しかった。

食後ゆっくりコックピットで休んでいると CAVOK5の直ぐ隣に大きな修理中のコーストガードの艇あったが、そのクルーがお盆にコココーラとポップコーンを差し入れしてくれた。コックピットに一緒に招待したが英語がしゃべれないということで彼らは遠慮した。

見ず知らずの我々にこのような好意を持ってくれるということは非常に嬉しい。早速お返しに日本のタオルとお菓子を渡す。気持ちの良いコーストガードの青年たちだった。

9月1日(日曜日) Marmaris 快晴

午前中にマリマリスの町にドルムシュ(ミニバス)に乗って出かける。綺麗な町で港は観光船のガレットで一杯だ。港に続いて海水浴場が伸びて一大海水浴場だ、町には近代的な大きなバザールがあり、早速お土産と自分の靴、衣料を購入する。質の良い靴、衣料が並んでいる。

お昼は久しぶりにチキンとラムのケバブを食べる。明日下架予定なので艇に戻ってからハルとデッキの洗浄をする。ハルの洗浄をしていると例のコーストガードの乗員が手伝ってくれる。お互いに言葉の分からない中だが海の仲間の友情を感じる。

その後いつもの様にプールで泳いでシャワーを浴びて帰ると、悦子がコーストガードの艇から日本のお土産の返答にとトルコのお守りの付いた風鈴を届けてくれた旨教えてくれる。言葉は通じないが何とも言えない心の会話だった。

夕暮れの風を浴びながらイワシの酢漬けとレバーペーストでビールを心地よく飲む。至福だ。夕食はハリハリ漬け入りサラダ、キノコとオニオンの炒め物、鳥の胸肉のソテー、ヒジキをご飯と頂く。いつもながら大変おいしい。

9月2日(月曜日) Marmaris~Ekincik (20NM) 快晴 西20ノット

マリーナのオフィスが 8:30 に開くので開く前にオフィスに行き下架の申請を一番です。生憎と前日が日曜日でマリーナが休みの関係で上架する艇が数艇程あり我々の下架は昼過ぎになるとの事だった。

ビールを飲みながらお昼に冷しラーメンを食べている時に下架のお呼びがかかり途中でお昼を中断する。感じの良いコーストガードの若者に挨拶をして別れる。下架した後ジブセールを揚げるがマリーナのスタッフが手伝ってくれ感謝する。

中断したお昼を食べて出港する。久しぶりの洋上は気持ちが良い。暫く湾内を機走してから東に向かう。西風が20ノット吹いているのでメイン、ジブともリーフして走る。追手の良い風を受けて7ノット前後の速度で気持ち良いセーリングを楽しむ。

エキンジュックはマリマリスから20NM の近い距離なので3時間強で到着する。入りの中の My

Marina に係留する。ここはレストランマリーナで素晴らしい景観の中に桟橋がある。食事をすると係留代は要らないので夕食を予約する。

熱い体を海水浴で冷やした後艇のシャワーを浴びてコックピットで水割りを楽しむ。各国のヨットイヤーが行き交い人間模様を楽しむ。その中にチャナツカレで会ったと云うご夫婦が声をかけてくれた。

一休みした後レストランに行く。此処はメニューが無くワインも現物を並べて持ってくるだけでワインリストが無いかと聞くと無いとの事。仕方なしに値段が分からないがソビニョンブランを注文する。メゼもメインも同じくメニューがなく現物を見せに来るだけだった。

値段もわからず注文する羽目になったが前菜にメゼ、サラダを頼み、悦子はカジキマグロのシシ、私はタイのグリルを食べる。とっても美味しい味であったがトルコにしては高い320TL の勘定であった。



係留の場所代と食事代なのでまあまあかと思う。それにしても静かな入り江の中にポツンとある素敵なレストランマリーナで気に入った。

9月3日(火曜日) Ekinjic~Gocek (Wall Bay) (30NM)快晴 NW10~15

0930 に桟橋の舫いを解く。静かな海面を湾から出るまで機走する。湾を出てから北西風が吹き出し追手で快調なセーリングでゴチェック湾に向かう。同方向に向かう艇が7隻そして反対方向の艇とも多く行きあう。

少しうねりがあったので昼食はゴチェック湾に入ってから食べることにする。湾に入って海面が穏やかになってから冷し中華をビールで頂く。毎日同じように晴天なので冷えたビールが美味しい。

狭い島との間を抜けて Skopea 湾の中に沢山ある入り江の中の錨泊のうち最初 Kapi Greek を覗き次に Wall Bay に行くが風が時折20ノット近く吹くので錨泊を諦め Wall Bay にあるレストラン桟橋に横着けで舫う。

この辺りはチャーターヨットが多くここも半分以上チャーターヨットが来ている。ここでトルグトレイスのマリーナで稲次さんのハイドロジア号と2年間係留が一緒だったという MOROB 号の方が声を掛けてくれた。

ここもレストラン桟橋なので食事を注文しなければならない。カラマリフライとラムのシシ、メロンの出前を頼み CAVOK5でマーボー春雨、イワシの胡麻和えを作りご飯で頂く。食後はそのままデッキで星を見ながらすやすやしてしまった。

9月4日(水曜日) Wall Bay～Skopea Marina (Gocek) (6NM) 快晴 北風10ノット

今日はスコッペア湾を奥のマリーナに行くだけなのでのんびりセーリングだ。

朝ゆっくり食事して昨日出前で頼んだ食事の支払いに行く。ついでに焼きたてのパンがあったので蜂蜜と一緒に買う。食事代とまとめて100TLであった。

我々の前に昨夜入ってきたロシアの大型モータークルザーが係留している。彼らが出ないと我々が出にくいので彼らの出港を待って0930に舳を解く。

湾内は風が回っていてメインとの機帆走になる。スコッペア湾の中には10か所ぐらいの入り江がありそこが泊地になっている。途中 Tomb Bay を覗く。此処にはリキヤ人が作った岩窟墓が岩壁の中腹に岩堀されているのを見る事が出来た。リキヤ文明は南トルコ帯に紀元前2000年頃から始まりギリシャとは独立して独自の文明で紀元2世紀ごろまで栄えたそう。この辺り一帯をリキヤ海岸とも云う。

行き交う観光客を乗せたガレットやヨットを避けながらスコッペア・マリーナに向かう。ここゴチックにもマリーナが5つあり軒並に並んでいるので探すのに苦労する。今回はここにD-Marinと云う大きなマリーナがあるがこれを避けて小ぶりのSkopea Marinaを予約しておいた。

何とこのマリーナはメガモータークルザーがずらりと係留していた。スタッフは親切に係留を手伝ってくれ12時に舳を取った。暫く水を使えなかったので先ずデッキを水で流す。日中は日向に居ると大変暑い。町の街頭の温度計が38度表示していた。朝から水、ビールを沢山飲むが乾燥しているせいもあるがほとんど汗で蒸発している。それも汗をかいたという感じでなく体に汗が溜まる前に蒸発しているようだ。したがってトイレも中々行かない。

お昼を昨日の残りで頂きビールで気持ち良くなり昼寝してしまう。夕暮れ前に町に出て、明日来るHarrietさんを空港に向かいに行く手順を調べる。又ここからの観光を調べるが次に行くFethiyeからの方が便利なのでパムッカレへの観光はフェティエからにする。

悦子は買い物で明日からの準備をする。マリーナの桟橋は大学生のヨット実習のグループがいて賑やかだ。良くある事だが今回も彼らが一緒に写真を撮って良いかと聞いてきたので一緒に写真を撮る。どうも僕の白髭が人気の様だ。

今日の午後から風が強く吹く予報だ。外洋では暴風警報が出ているが湾内のマリーナでは時折強い風が吹く程度でその風が心地よい。

夕食はコックピットで先ずはレバーパテでビールを飲みながら夕暮れを楽しみ。サラダ、肉じゃが、マーボー春雨、イワシの鮓目、イワシの胡麻和えを頂く。

9月5日(木曜日) Gocek～ Fethiye (10NM) 快晴 南10～20ノット

今日はハリエットさんが乗艇する日だ。彼女は今から4年前の最初の年の航海にイギリスからフランスまで一緒した米国人で私と同じ1945年生まれの女性だ。昔彼女は日本で近所に住んでいて親交があった方だ。

朝食事をして迎える準備をしてから Dalaman 空港にミニバスに乗って迎えに行く。ミニバスは空港迄行かずダラマンの町でストップになってしまった。ダラマンの町からタクシーで空港まで行くことになったが一緒にミニバスに乗っていた若いカップルが声を掛けてくれ一緒に行こうと誘ってくれ、一緒にタクシーに乗る。

話していると彼はトルコ航空の客室乗務員をしていて休みで来たそうだ。日本にもフライトで何回も行ったことがあるそうだ。空港に着いて割り勘で支払おうとしたら彼は受け取らず結局彼のおごりになってしまった。CAVOK5の私の名刺を渡したので何かの縁でお返しが出来ればと思っている。

イスタンブールから12:45着の便でハリエツさんが定刻に到着する。今年の冬に日本で会ってはいるが異国の地での再会は又格別なものがある。

空港からはタクシーでマリーナまで行く。彼女はヒューストンからイスタンブールまで飛んできたが12時間掛かったそうだ。日本からヨーロッパの飛行時間とほぼ同じだ。イスタンブールで一泊したので元気だったので着いてから、直ぐ出港して10NM 先のフェティエに行くことにする。

13:50 に舳いを解くが、昨日までの北西風は収まり、海風の南西風が結構強く吹き始めた。南トルコ海岸の夏の特徴の海風、陸風だ。此処まで来るとメルテメの影響は弱まる。湾内なので波が無い中20ノット近い風を横に受けて7~8ノットの快調なセーリングを楽しむ。

遅いお昼をセーリングしながら頂く。久しぶりの生ハムがビールと合い太陽と風の下で美味しく頂く。ガレット船を含む無数の艇が帆走していた。

16時にフェティエの小さなマリーナ YES Marina に舳う。

明日はパムッカレの観光を予定しているのでツアーバスを探しに、ミニバスで町まで行って予約してくる。ツアーバスがマリーナ迄来てくれると云うので助かる。足りなかった買い物をしてマリーナに戻る。

マリーナのシャワーを浴びてから、夕食はいつものようにサラダとジャガイモのガーリックグリル、ラムチャップを静かなコックピットの上で頂く。

9月6日（金曜日）Fethiye 快晴

マリーナの前にパムッカレへの観光バスが6時に迎えに来るので5時起きで準備する。ここからパムッカレまでは250KM 約4時間半の行程だ。途中お客さんを拾って27人乗りの小型バスは満席で出発になる。

途中の道は緩やかな丘陵地帯で野菜、果物、牧畜と豊かな農業地であった。パムッカレは石灰棚とヒエラポリスで有名で世界遺産になっている。石



灰棚は石灰を含む湯が、長い時を経て結晶して台地を覆ったもので石灰棚が段々畑の様に広がり、真っ白い石灰棚の中にブルーの湯が溜りは不思議な景観であった。

そしてヒエラポリスは紀元190年に始まった都市の遺跡で、この時代の遺跡としては内陸部にあったことで有名だ。

ローマ時代、ビザンチン時代途中迄長く繁栄した都市である。紀元前2世紀にハドリアヌス帝によって造られた円形劇場は、高さがあり急な勾配によって造られた大劇場で保存状態も良い。1万5000人から2万に收容出来たそうだ。



次にローマ時代温泉保養地として栄えたヒエラポリスの中にあるバムッカレ温泉に入る。温泉の底にはギリシャ、ローマ時代の遺跡がごろごろしていた。素晴らしい遺跡を見て帰着したが到着は20:30になっていた。

夕食はマリーナのレストランで遅い食事をして休む。



9月7日（土曜日）Fethiye～Gemiler（15NM）快晴 微風

ここしばらくは風が穏やかなので今日は15NM先のGemiler島で錨泊を予定してお昼過ぎに出港することにする。

午前中はミニバスに乗って町に出て買い足りなかった物を購入して、昼食用にチキンのケバブのラップを仕入れた。ここにもローマ劇場があったが保存状態が悪くなく復元工事をしていた。

12:50に舳を解き半島の反対側のゲミレル島行く。ここも計画では予定していなかったが、地元の人のお奨めがあったので行くことにした。15NMの航海の間に数多くのヨットと行き来した。9月の今がベストシーズンだと思う。

お昼に買ったケバブのラップがビールと一緒に大変美味しかった。

15:30にゲミレル島に着いてアンカーを打とうと場所を探しているとテンドーに乗った男が来てアンカーを打つ場所を教えてくれ、スターンからの舳を島の岩に結んでくれた。お礼をと思っていくらか聞いたら、レストランからで食事の誘いであった。我々は昨日外食だったので艇で食べる予定だ

ったのでそれを断り朝焼きたてのパンを届けてくれるということで40TLを渡した。

海はターコイズ・ブルーの綺麗な海水で皆さん早速泳ぐ。岸から急に深くなっているがブルーの色が濃くなり吸い込まれそうであった。

泳いだ後ゲミレル島に登る。何とここには日本語のパンフレットがあり読むと1991年から～1998年にかけて日本のリキヤ地方ビザンチン遺跡調査団が文部省の後援で調査したところであり、今後も又調査を続ける予定であった。



今我々の航海しているところはリキヤ地方であるがトルコ南西部は地中海の海場交通路でリキヤ文明が栄えたところだ。

ゲミレル島はリキヤの時代から、それを引き継ぎ中世の港湾都市になり、3つのキリスト教聖堂が初期ビザンチン時代の紀元5, 6世紀に建てられた。そして7世紀にはアラブの侵入を受けて損害を受けたが12世紀までビザンチンの庇護を受けていたが、ビザンチンの力も弱り消滅した。聖ニコラオスを祭っているので聖ニコラオスの島とも呼ばれている。島の上から見る景色は海の色と相まって絶景だった。

夜は星空を見ながら艇で今日買ったザクロのドレッシングで野菜サラダ、チキンカツ、ガーリックライスと白ワインと共に頂く。チキンカツが美味しかった。食後ウイスキーのロックを飲みながら、停泊灯を切って星空を見ながら過ごすが気が付いたらコックピットで寝ていた。

9月8日（日曜日）Gemiler～Kalkan（30NM）快晴 微風

朝7:30に焼きたてのパンが届いたので朝食を食べてから08:30にアンカーを揚げる。今日は殆ど風がなく全行程セールを揚げることなく機走になる。相変わらず行き交う艇が多いが半分ぐらいがチャーター艇だ。

お昼にスパゲティーポモドーロを頂き、カルカンの港には13:30に着く。パイロットブック拠れば狭い所でアンカーが交差するので用注意の港とあったので心配していたが港に入るとスタッフが出てきて係留場所を支持してくれアンカーを打ってスターン着けするとき舳れも取ってくれ助かる。

港の中のマリーナみたいなところで水道、電気もあり、トイレ、シャワー、ランドリーも有料だがあり助かる。一泊90TLなのでまあまあである。そしてスタッフが2020年のオリンピックは東京に決まったとおめでとうと言ってくれる。そしてトルコと日本はとっても近い国だと親近感を持ってきていた。

風がなく暑いので直ぐ港の隣にある海水浴場にラバーボートでぎに行く。この海水浴場の水は表面が冷たい。熱い体に気持ちが良いが聞いてみたら地下水が湧き出ているとのことだった。戻ってからデッキを水洗いを、悦子はランドリーで洗濯をした。

明日この近くにある世界遺産クサントス遺跡、パタラ遺跡をレンタカーを借りて見学する事にする。

日中は暑いのでクーラーの効いているオフィスに入りインターネットで調べ事をする。日が沈んでからの気温は快適で長袖があっても好いくらいの心地良さだ。

今日もコックピットで夕食を楽しむ。メニューはプロシュートとメロン、胡瓜の塩もみ、イワシの酢漬け、ラムチョップ、キノコとズッキーニの炒め物、アサリの混ぜご飯を赤ワインで頂く。港を囲むように町が聳えていてその明かりが綺麗だった。

9月9日（月曜日）Kalkan 快晴

朝食後8時にレンタカーを借りる。今日は世界遺産のクサントス、パタラ、レトゥーン遺跡を先ず廻り、その後サクルケント渓谷に行く予定で出発する。

先ず一番近いパタラ遺跡に行く。ここはまだ発掘途上で断片的な遺跡しか見れなかったが劇場、浴場跡、メインストリートが跡を残していた。壊れている遺跡をパズルの様に合わせて復活させている考古学者に感心する。そしていつも思うのだがその時代の人たちが大きな大理石を積みあげた技術には感心する。

遺跡から暫く行くと白い砂浜が18km続くパタラビーチに出る。ビーチパラソルが並ぶ中、小屋で生のオレンジの搾りたてを飲む。オレンジ5個位使って5TL(200円)フレッシュで美味しい。

次はレトゥーン遺跡に行く。アルテミスとアポロンを生んだ女神レトの神殿がある。円形劇場の保存状態は当時の状態を残してあり良好だ。

その後クサントス遺跡に行く。ここは古代リキヤの首都であり世界で初めて共和性採った都市である。ここにも円形劇場があり当時の豊かな文化を感じる。

遺跡巡りの後は自然の渓谷サクルケントに行く。遅くなったお昼をサクラケントで食べるが溪流の流れを使った涼しげなレストランでそれぞれ、チキン、ビーフ、ラムのシシ(串焼き)を食べる。トルコ式スタイルでゴザの上にテーブルとソファがありリラックスの雰囲気食べた。雰囲気は日本の川床料亭だ。

食後サクルトン渓谷に行くが見事にそびえ立つ両サイドの渓谷の間を歩く。水は冷たく氷の中に足を浸けているようで長いことは溪流の流れに足を浸けてられなかった。

港に戻るとヨットが一杯でオフィスに聞くと満杯でこれ以上係留できないことだった。ほとんどがチャーターヨットで偶々グループのヨットが入港していたようだ。近くに係留しているヨットから一杯如何のお誘いを受けたので3人でジントニックをご馳走になる。お誘いには出来るだけ断らないようにしている。ドイツ人のグループで明日は同じ Kas に行くとの事だった。

そして今晚はハリエツさんが夕食をご馳走してくれることになり、港の周りに軒を並べている中で美味しそうなレストランを探して入る。

ここが当たりでメゼの前菜、グreekサラダ、チキンカレー、そしてシチューの様に煮込んだケバブを白ワインで食べるがこの Testi Kebap が大変美味しかった。

臼の様に港が山で囲まれているが、その丘陵地に建つレストラン、ホテルの明かりが賑やかできれいだ。ただしパイロットブックに拠ればざわざわしてノイジーな場所と酷評があった。

艇に戻ったのが23時過ぎでそのままぐっすり眠りにつく。もし不眠症の人が居たら、ヨットに来ればすぐ治ると思うぐらいだ。

9月10日（火曜日） Kalkan～Kas（15NM）快晴

今日は15NMの短いレグなのでゆっくり午前中を過ごす。港の防波堤の海側が海水浴場になっていて綺麗な水に吸い込まれるように泳ぐ。陽が上がると急に暑くなるので海水浴が気持ち良い。

お昼にチキンのケバブのラップしたのを悦子達買って来たので洋上でお昼をすることにして13時に出港する。穏やかな海上で周りの岩壁が聳え立つ景色を見ながらビールでお昼を食べる。ラバーボートを引きながら斜め後ろから風を受けて快調にセーリングを楽しむ。

Kasのマリーナは新しく出来た Setur Kas Marina を予約した。パイロットブックには Setur Marina は載っていない、多分 Kas Marina が Setur Kas Marina と思い緯度経度を調べず、Kas Marina を GPS に目的地とインプットして出かけてしまった。

半島を越えた入り江の奥に Kas Marina を見つけていくと様子が違うので、今度は緯度経度を入れて調べたら何と半島の反対側にあり、6NM程さらに戻り17:20に Setur Kas Marina に入る。ここはトルコで幅広くマリーナ経営をしている Setur グループのマリーナで規模も大きく施設も充実している。まだオープンして間もないのかポンツーンは大分空いていた。

カシュはリキヤ遺跡が残っているところだ。到着が遅くなったので町を散策しただけで艇に戻る。反対側から見たカシュでは古代劇場が沖からはっきり見えた。全容が残っており遺跡らしくないのでレプリカかと思ったら本物だそう。明日見に行きたい。

9月11日（水曜日） Kas～Kekova(Ucagiz)（20NM）快晴 南西5～10ノット

午前中タクシーを呼んで海から見えたローマ劇場を見に行く。小さな劇場だが大変保存状態が良く観客席の最上段からは地中海メイスの島々が見渡せた。帰りにトルコに入って2回目のガスポンベの交換をして帰る。

11:50に舳いを解き穏やかな海面をケコワ島目指す。追っ手の風で4～5ノットの速度でノンビリセーリングする。

最初ケコワの Tersane と云う入り江にアンカーリングする予定だったので行ってみると狭い入り江に観光用ガレット船で占められアンカーする余地がなかったのもう一つ奥の Ucagiz の入り江にアンカーを打つ。水深5~10m 位の所で大きな入り江なのでスムーズにアンカーを打つことが出来た。岸辺の栈橋には多数のガレット船が舫われていた。

早速熱くなった体を3人とも海に入り冷やす。

上がった後はジン、ビール、レモンをシェイクしたハリエツトさんのお父さんの命名したカクテルのブルを頂く。入り江の綺麗な景色を見ながら飲むブルは口がしまり海にはもってこいのお酒だ。

夕食はハリエツトさんがトマト、キュウリ、グリーンオニオンとパセリの入ったサラダを作ってくれた。そしてチキンのカレーライスと頂くが、ご飯とカレーが無性に美味しかった。

9月12日（木曜日）Ucagiz~Wooden House Bay（5NM）快晴 無風

今日もケコワ湾でアンカーリングすることにする。あちこちにアンカーリングの適地があり選ぶのに苦労するくらいだ。

朝食後ラバーボートに乗ってウガジの町に出る。小さな観光地で町と云うよりは村である。ここもリキヤの遺跡があり村にはリキヤ遺跡の石棺が無造に置かれている。ハリエツトさんはシャツを何枚か買う。安くてデザインと色が良い。

12時にアンカーを揚げて今日の錨地 Wooden House Bay に行く。ウガジからケコワ湾に出る水路が狭く、ガレット船が出入りするのでタイミングを見ながらケコワ湾に出る。

13時に入り江についてアンカーを打つ。船尾からも舫いを岩壁に取り振りまわらないようにする。今日のお昼は久しぶりにソーメンを頂く。暑い陽射しの中でのビールとソーメンは美味しい。

食後昼寝をしてから泳ぐ。泳いだ後は隣の入り江に泉が湧くと云うのでペットボトルを持ってラバーボートで行ってみたが泉は海の中からで泉の水を給水することは出来なかった。泉のせいで海水はとっても冷たかった。



帰ってみると近くに錨泊していたヨットが我々を呼んでいる。我々が打ったアンカーが彼らのアンカーと交差して彼らのアンカーが揚がらないようだ。

我々のアンカーを揚げて交差を何とか解消する。我々はその後新たにアンカーを打ち直す。岩壁からは2本舳いを取り錨泊に備える。アンカーリングには結構神経を使う。

泳いでシャワーを浴びて例のブルとハリエットさんのお土産のスモークサーモンを頂く。今まで係留していたガレット船も引き上げ湾には4隻だけの船が残る。

夕食はメロンとハモンセラーノ、野菜サラダ、カレーを赤ワインで頂く。月が半月になり月明かりで食事出来る様になった。そのまま3人ともデッキで休んでしまうが気が付いたら私だけが残っていた。

9月13日（金曜日） Wooden Bay ～Kale Koy（5NM） 快晴 微風

錨泊なので夜半安全確認のため起きて暫くコックピットで休む。入り江の周りには明かりが一切なく天の川や星が良く見えた。

朝食前に三人で泳ぐ。ここも湧水があり岩の間から湧いているが冷たい水だ。お昼前に岩壁に舳つてある船尾の舳いを解き、11:20にアンカーを揚げる。12時過ぎに今日の係留地カレと云う小さな村に着き、レストラン棧橋に横付けする。

大失敗をした。棧橋に着いたら後からスエーデン艇がラバーボートを引いてきてこのラバーボートは貴方のではないかと聞いてきた。慌てて後ろを見るとラバーボートが無い。棧橋に着ける前に離れたみたいだ。

クリートにしっかりクリート結びをしたはずだったが緩んだみたいだ。今後の大きな反省になる。

スエーデン艇は棧橋に係留することなくそのまま出て行った。お礼に日本からのお土産を差し上げる。親切に感謝だ。

大変きれいな景観のウオターフロントの村で丘の上はお城があり岩壁にはリキヤ時代の岩窟墓が見える。港の周りのレストランはブーゲンビリヤを始め色鮮やかなお花で着飾っていてまるで箱庭に居るみたい



だ。

早速レストランに入りビールで喉を潤す。風の通りが良いウオターフロントのレストランで気持ち良い。夕食をこのレストランに予約しておいて、お昼はラーメンを艇で食べる。

日中は大変暑いので日陰で一休みの後泳ぐ。リキヤ遺跡のお墓が小さな入り江の真ん中に建っている。この辺りは遺跡が海底に沈んでいるようだ。潜って遺跡を探したが発見することは出来なかった。

ケコワ湾周遊のトリッパーボートが時折通過したり棧橋に着けたりしているのを観たり、景色を楽しみながらビールを飲んで夕暮れを過ごしていると、棧橋レストランのオーナーの御嬢さんが来て、日本の小耳整形の専門の永田先生を知っているかと訪ねてきた。

知らないでインターネットで調べると世界一のこの分野の先生だった。彼女の小さな子供の耳管がふさがれているのでその先生に手術を頼もうと思っているとの事だった。こんな小さな村でも日本の先生の名が轟いているのに誇りを感じた。

19時過ぎに CAVOK5が目前にあるこのレストランで食事する。前菜にメゼを、野菜サラダそしてメインにラムチョップ、ビーフとチキンのケバブをそれぞれ頼む。地元赤ワインで食べるが炭火焼で美味しかった。

食事が終わってトルココーヒーを飲んでいると隣に座っていた若いカップルが話かけてきて一緒になる。彼等はイスタンブールから観光で来ているようだ。トルコの観光についていろいろ教えてもらった。とっても感じの良い聡明そうなお二人だった。